

**「何か」は変わった。
だが、それは上達か、変化か。**

- 文章が前よりスムーズに出てくるようになった
- 反応が少し増え、見せ方が定まり始めた
- しかし、変わった理由が言語化できていない
- 上達なのか、単なる変化なのか判別不能
- 次に何を直すべきか、まだ曖昧な状態

成長の質を「未分解」のままにしない

一括処理の罠 すべての変化を「上達」として一括りにしている

領域の混同 スキル（技能）と視点（判断軸）を混同している

質の未分解 成長の中身を分解していないため、正体が不明瞭

ぼやける実感 上達実感が薄く、迷いの原因が特定できない

次の改善点が見えない構造を打破する

「技術」だけが、結果を動かすわけではない。

- × 書ける = 技術の向上のみ
- × 反応増 = 表現力の向上のみ

視点の変化が、結果を先行させる。

誰に何を届けるか。その優先順位の明確化こそが、立ち位置を固め、結果を先に引き寄せる。

変化を「技能」と「視点」に仕分ける

1. **列挙**：できるようになったこと、反応が変わったことを書く
2. **判別**：それは「手の動き（技能）」か「見え方（視点）」か
3. **分析**：手段の変化なのか、優先順位の変化なのかを問う
4. **接続**：視点の変化を認めた上で、次に伸ばすべき技能を決める

※視点の変化が、次の技能の価値を決定する。

迷いの種類が、変わる。

- ✓ 迷いの対象が「手段」から「選択」へと移行する
- ✓ 言葉の濁りが減り、行動の精度が劇的に上昇する
- ✓ 改善すべきポイントが絞られ、見えやすくなる
- ✓ 自分の立ち位置が固まり、他者比較の頻度が減少する
- ✓ 次に伸ばすべき技能が明確になり、投資が集中する

成長の質を分ける棚卸しシート

- 最近できるようになったことを書き出す
- 反応が変わったポイント、迷わなくなった点を書く
- それらを「技能」と「視点」に分類する
- 届けたい相手とその悩み**を再定義する
- 今、最も伝えたいことを一行で書く

※判別することで、次に磨くべき武器が鋭くなる。

この資料は、改善を加速させる「診断カード」

成長の質を見分ける基準 / 改善前の診断用カード
視点ブレの確認装置 / 技能強化の順番決定用
定期見直し前提の設計図 / 迷いの種類を判別する資料

方向修正の起点として活用してください。

どちらの成長スピードを選びますか？

技能のみの追及

技能だけを伸ばし続ける
一人で曖昧なまま続ける

比較と迷いが続く状態

視点の整備と強化

視点を整えてから伸ばす
構造を見直して進む

立ち位置を固めて進む

※必要な人だけ、次に進む選択を。